

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立吉田中学校

1 自己評価書

教育目標 豊かな人間性を持ち、地域とともに歩む生徒の育成					
基本方針 1 家庭・地域との連携を更に進め、家庭・地域から応援され、信頼される学校づくりを目指す。 2 知、徳、体のバランスがとれた「たくましく生きる力」を育む学校づくりを目指す。 3 一人の人間として互いに認め合い高め合いながら、一人一人がよりよく生きる学校づくりを目指す。 4 全教職員が高い志と実践的指導力を持ち、教育愛にあふれた学校づくりを目指す。					
本年度重点目標 1 応援され、信頼される学校づくり 2 「たくましく生きる力」を育む学校づくり 3 互いに認め合い高め合う学校づくり 4 高い志と実践的指導力のある組織による学校づくり					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	B	B
			・具体的な対策の実施	B	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・生徒アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	C
			・保護者アンケート	D	
			・生徒アンケート	C	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	D
			・保護者アンケート	D	
・生徒アンケート			D		
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	B	A	
		・保護者アンケート	A		
		・生徒アンケート	A		
(成果と課題) ○ 各教科の研究会(数学科、英語科、保健体育科、「けてぶれ」学習法)を開き、外部の先生方からも意見をいただいて、これまでの成果や課題について明らかにすることができた。 ○ 総合的な学習、学校行事、生徒会活動の充実により、地域とともに歩もうとする態度が育った。					
(改善策等) ○ 「けてぶれ」学習法、EILSの活用、学力調査の分析を踏まえた具体的な対策など、校内研修の更なる充実を図りたい。 ○ 読書活動の充実についての評価は前期同様低いが、肯定率は向上している。全校縦割りの小グループで、お互いの本を紹介するなどの活動も取り入れていきたい。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	C	
			・生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	C	
	③ 基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			・生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
④ 自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B	
		・生徒アンケート	C		
		・教師アンケート	A		
		・生徒アンケート	C		
(成果と課題) ○ 学校行事(体育祭、文化祭など)を通して、個人や学級・学年集団が成長する姿が見られた。 ○ 不登校だった生徒1名が教室復帰した。不登校等対策の職員を中心としたきめ細やかな関わりの成果である。 ○ 生徒指導に関して情報共有が曖昧で、対応が遅れることがあった。					
(改善策等) ○ 生徒指導主事を中心に各学年の担当者が核となり、スピード感を持って取り組む体制を整えていきたい。 ○ 自己肯定感等についての生徒の評価は前期同様低いが、肯定率は向上している。諸活動において、生徒に偏りなく活躍する場面を作り、小さな成功体験を経験させていきたい。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	D D	D
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとられないことなく取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	C	C	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修会を開き、業務改善に向けた具体的な取組について話し合うことができた。 ○ 校時の工夫により、職員会議、校内研修会、学年部会などの時間を生み出すことができた。 ○ 時間外勤務の実態は、依然として危機的状況にある。日々大変忙しく、職員室内の雰囲気が悪くなることもあった。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市教委、愛教研、中体連、学校運営協議会、PTAなどに対し、業務改善に向けた協力を依頼していきたい。 ○ 情報共有をこまめにする、業務分担を明確にすること、見通しを持って計画的に取り組むこと、しんどい時こそ温かい声掛けを心掛けるなど、年長者が率先して範を示していかなければならない。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
・地域アンケート			A		
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
・教師アンケート		A			
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会に多数の教職員が参加し、教職員の業務改善について熟議した。また、部活動の地域移行について臨時の会を開くことができ、この会の存在意義が大いに高まった。 ○ HPの更新頻度と掲載内容について保護者から否定的な意見があった。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域への情報発信の手段と内容を整理し、適切に発信していきたい。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満